

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度 第2回郷育推進会議
開催日時		令和8年6月22日（月） 18：30～20：00
開催場所		福津市役所別館1階 大ホール
委員名		(1) 出席委員 木本会長、山口副会長、伊藤委員、宇都宮委員、 大森委員、國廣委員、立山委員、道園委員、中島委員、 (2) 欠席委員 柳田委員
所管課職員職氏名		教 育 長 薄 俊哉 教 育 部 長 宮原 栄介 郷 育 推 進 課 長 芹野 文彦 郷 育 推 進 課 郷 育 係 長 宇藤 雄矢 郷 育 推 進 課 郷 育 係 山西 菜穂子
会 議	議 題 （内 容）	議題 福津市生涯学習推進計画（第2期）の答申に向けた審議
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	3 人
	資料の名称	・ 福津市教育大綱 ・ 福津市生涯学習推進計画の改定に向けた提言 ・ 福津市生涯学習推進計画
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会のことば

2. 諮問

教育長より、会長へ福津市生涯学習推進計画の諮問

3. 会長あいさつ

4. 協議事項

「福津市生涯学習推進計画（第2期）の策定について

●会長

諮問を受けたので、方針を策定するというので、これから協議を重ねていく。

諮問、答申という言葉は難しく感じるが、委員の普段の活動からの知恵や意見を出し合って協議を重ねていく。最終的な計画書は教育委員会が作成するが、その前の「素案」に意見を足したり引いたり揉んだりしながら審議していく。必要な要素をどう盛り込むか協議するという事。

諮問を受け、すぐに答申書の作成ではなく、協議の材料をテーブルに並べるつもりでまずは自由に意見を出し合う。

生涯学習推進計画を策定するうえで委員として次のことに理解が必要。「社会教育」は行政や制度側、公民館や図書館などの施設での組織的な活動。対して「生涯学習」は場所・家庭・職場関係なく、地域全般でゆりかごから墓場まで縦軸に意識を持った学びである。今回は言葉にとらわれすぎず、大きな枠組みで福津市の身近な計画を立てていきたい。

会議は7月と9月、10月に開催。10月末の最終答申に向け、限られた回数の中で集中的に審議を進める。会議だけでは時間が足りないので、事務局よりメールにて「案の前の素案」を委員へ送付し、各委員は意見をメール等で事務局へ返すことも必要になると考えられる。

計画の名称について、名前がちょっと固いと思う。例えば「ドリームプラン」などの名前にし、写真を盛り込んで、市民に読みたいと思ってもらう工夫も必要。この場で結論を出す必要はないが、いろいろな意見があってよいと思う。

平成31年度に前回計画を策定してから、社会情勢は大きく変化している。変化を受けて変わることも必要であると同時に、福津市独自の表現である「共生（きょういく）」「郷生（きょうせい）」といった漢字に込めた意図も大切にしたい。

●委員

皆が「生涯学習」を自分事として理解できているか。良いものを作っても読まれにくい、理解されていないのではないかと。システムとして非常に良い「郷育カレッジ」なども、まだ浸透が足りない。知ってもらうための「仕掛け」や、市民が理解するための方法等、工夫が必要。委員を務めるようになって、様々な良いシステムが既にあることを知った。それが市民に広まるためにどうしたらよいか考えている。

●委員

私は子ども会の活動をしているが、社会の状況が大きく変わっているのを感じる。

以前は保護者と直接顔を合わせる機会があったが、現在は子ども会の加入も少なくなっている。以前は自治会ごとに子ども会があった。現在は人数が少ない子ども会同

士を繋いで活動することも試みている。子どもたちの為に、いろいろな行事を行うことが目的だが、難しく感じることもある。

自治会自体加入率が低くなっていると聞いている。

●会長

以前は自治会も組織として成り立っていたので、情報等がトップダウンで伝達される仕組みがあったし、そこに学びがあることもあった。今は欠けた部分がある。しかしながら、要望は上がってくることはある。様々な要素をうまく繋げていけると良い。地域によって特色があるのでは。

●委員

私の自治会は、加入率が高い地域だと思う。学校に通う子どもがいない世帯でも、祭りや運動会を一緒にやりましょうという雰囲気がある。現在では稀な地域かもしれない。

●委員

昔は自治会に入りませんかと自宅まで行ったりしていた。今はそういったことはない。40年くらい前は、夏休みの朝のラジオ体操もみんなで神社に集まってやっていた。今は参加者が少なすぎて、やっていないところもあると聞く。

郷育カレッジもシニアの参加が多いので、もっと子どもが参加できるものがあった方が良いのではないか。

●会長

今年の郷育カレッジは、夏休みに子どもが参加できる講座があり、たくさんの応募があったようだ。

社会の仕組みが変わっていくと学ぶ場所や学びたいものの求め方が変わってきているかもしれない。

●委員

今の学校は、先生に子どもが教わるという一方通行ではなく「学び方を学ぶ」時代。多様な時代の中で、こんなに面白いことがあるんだ、と感じたり、子どもたちが大人になって幸せに生きられたりするように送り出したい。子どもたちがふるさと学習を通じて福津を愛し、学び続けられる環境が必要。成長した子どもが福津で学びたいと思ったとき、学校教育から社会教育へ変わるときに、応援してくれる環境があることが望ましい。

郷育カレッジのように学びの場があるが、市民が求めているニーズに合ってるのか検討する必要がある。いろいろアイデアが出ると良い。

●委員

婦人会の活動をしているが、新しく入ってくる人がいない。会員の中で70代が若いほう。

自治会の加入者が少なくなっているという意見があったが隣に誰が住んでいるか知らないということもあるのではないか。そういう場合の子どもがどう育つか不安。可能な時だけでも集まりに参加するよう呼び掛けても集まらない。子どもはある程度人数がいる地域だが、参加者が集まらない。

●会長

現在は仕事をもつ主婦も増えているという背景もあるかもしれない。女性の学びの場の提供、生涯学習のとても大事な分野を担っていたのが婦人会だったのではないかな。

●委員

学びの場の提供の仕方が今変わってきたのではないかと感じる。学校教育も昔と比べて変化しているが、社会情勢の変わり方が大きい。それに合わせて生涯学習推進計画も、最先端は求めないが、変化した要素っていうのも入れた方が良い。旧態依然としたものを作ると、なんの事だかわからなくなるので、現状を理解した上でどうアプローチしていくか考える時だと思う。

●委員

アンビシャスで活動しているが、様々な場面で課題がある。

他のアンビシャスの活動が良いと感じ、やり方を聞いて実践するが人数が足りないなど、同じようにできないことがある。

また、アンビシャスでは遊びを体験してほしいが、宿題に取り組んでいる子どももいる。

活動を見守るための大人確保も難しい場合がある。兄弟3人が参加しても、保護者は1人。協力してくださる地域の方も高齢になってきているので、次の世代に引き継いでいく必要がある。

●委員

今までは地域の中で孤立することは良くないので、皆が繋がる仕組みを考えようとしていたが、現在は社会構造が大きく変わっている。

学びの場の提供の仕方も変化している。何をどのように学びたいかを考えることがヒントになる。

ネットやSNSが普及し、入ってくる情報量が昔と圧倒的に違う。

生涯学習において、昔ながらの組織に縛り付けるのではなく、個人の興味関心から繋がった集まりを尊重したうえで、従来の組織とうまく繋いでいく仕掛けが必要。組織を外から見て、その組織に入ることに抵抗があったとしても、中身を知ると「自分の興味に合っている」となることがある。そのきっかけを作ることが必要ではないかな。

自分が繋がりたい時に繋がれる場が多くあり、繋がるタイミングも自由に選べる環境があることが生涯学習としても大切になってくる。

●会長

昔ながらの組織を活かさないといけないという固定観念を持ちがちだが、柔軟に考えることが大切。福津市の良さや強みを活かして、多種多様な個人と組織をつなぐ方法を考えたい。

●委員

市の中には、その繋がりを作る場の一つとして「キッカケラボ」がある。そこから各郷づくりへ繋がったり、若い世代が集まって活動したりしている。ボードゲームやパブリックビューイングなどで親子が地域に繋がっている例もある。

自治会単位で行っている、市の一斉清掃や防災訓練など、すべての市民に参加してほしい行事があるが、自治会に入っていない人には情報が届かないことがある。自治会の加入率が地域によってばらばら。各自治会にほぼ子ども会があるが、活動が活発

ではない。自治会と子ども会も繋がって活動しようとしているが、地域により差があると感じている。

●会長

本日の会議では、自由に意見を出し合ったことで、地域の現状や抱える課題が見えてきた。

旧態依然のままではなく、みんなが楽しく学びたいと思える計画にするため、それぞれの立場で「ぜひこれを盛り込んでほしい」という意見を出し合い協議していく。

その他

次回開催日について

第3回 令和8年7月22日（水）18時30分～開催予定。